

事務事業名	男女共同参画推進条例策定事業					☒ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連		
政策名	総合計画 04	みんなが元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	総務企画部	所属課	総務課	
施策名	計画 17	人権が尊重される社会づくり				所属係	総務選挙班	課長名	出口増穂	
基本事業名	体系 64	男女共同参画推進活動の実践				担当者名	飯開輝久雄	電話番号 (内線)	096-248-1112 1218	
予算科目	会計 01	款 02	項 01	目 15	事業	法令根拠	男女共同参画社会基本法			
事業期間	☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返 ☒ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 ↳ (開始年度 年度 ~) ↳ (18 年度 ~ 19 年度)									
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)				
(事業の内容) ・男女共同参画推進懇話会の中で、内容を検討し、その内容を男女共同参画推進委員会(委員会)で検討後、議会に上程、議決、公布し、男女共同参画のまちづくりに活かす。 (業務の内容) ①男女共同参画推進懇話会により検討、②その内容を委員会で検討、③その内容をパブリックコメント(PC)で市民に諮る、④PCで出た意見を、委員会で検討、⑤議会上程、⑥議決、⑦公布、⑧条例説明概要版を全戸配布、⑨各課等の業務や市民生活に活かし、男女共同参画のまちづくりを推進、⑩性別に関係なく住み良いまちになる。 (予算の内訳)なし						総 費 入 量	財 源 内 訳	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源		
							事業費計 (A)	0		
							正 規 職 員 従 事 人 数	8		
							延 べ 業 務 時 間	864		
							人 件 費 計 (B)	3,430		
						トータルコスト(A)+(B)				3,430

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

①男女共同参画推進懇話会で条例内容を検討した

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

・男女共同参画推進懇話会での内容を委員会で検討、その内容をパブリックコメント(PC)で市民に諮る、PCで出た意見を、委員会で検討、議会上程、議決、公

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

・男女共同参画推進条例

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

・男女共同参画を推進する内容となる。

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

・男女共同参画に向けて自ら取り組むようになる。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)数字は記入しない

名称

単位

ア 懇話会での条例部会の回数 回

イ 男女共同参画推進委員会での条例検討の回数 回

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称

単位

ア 条項数 項目

イ 人口 人

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称

単位

ア 男女共同参画の重要性が認識された市民の数 人

イ 人口 人

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)数字は記入しない

名称

単位

ア 委員会、審議会への登用率(行政・学校) %

イ 町内会代表における女性比率 %

ウ 男女共同参画社会が構築されてきたと思う市民の割合 %

(2) 総事業費・指標等の推移

	単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22年度 (最終目標)
投入 量	財 源 内 訳	国庫支出金	千円					
		都道府県支出金	千円					
		地方債	千円					
		その他	千円					
		一般財源	千円					
		事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	0
	人 件 費	正規職員従事人数	人		4	4		
		延べ業務時間	時間		432	432		
		人件費計 (B)	千円	0	0	1,715	1,715	0
		トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	1,715	1,715	0
活動 指標	ア	回			10	0		
	イ	回			0	2		
	ウ							
対象 指標	ア	項目			23	23		
	イ							
	ウ							
成果 指標	ア	人			不明	不明		
	イ	人			52500	53500		
	ウ							
上位 成果 指標	ア	%						
	イ	%						
	ウ	%						

事務事業名	男女共同参画推進条例策定事業	所属部	総務企画部	所属課	総務課
-------	----------------	-----	-------	-----	-----

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
 ・大住市長のマニフェストに謳われ、また、県内の全市で制定または検討がなされているため。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
 ・社会全体が、男女共同参画推進には前向きではある。
 ・ただし、やり方によっては「揺り戻し…バックラッシュ」があるので、条例制定の取り組みは充分市民の意見を取り入れることが重要である。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
 ・パブリックコメントを実施する。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市(町)の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 ・男女共同参画の推進には、条例制定が一番の近道。合志市、合志市民、事業所の責務を謳い、取り組んでゆくと、結果の男女共同参画推進に自ら取り組むようになる体制づくりが整えられ、結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市(町)が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 ・性別に関係なく、合志市民が幸せになるための条例なので、税金を投入して事務事業を行うことは妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 ・対象、意図とも現状で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 ・条例制定はあくまでスタートである。その条例をもとに今後、どう取り組むかが重要なので、成果の向上余地はある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 ・条例が制定できないと、男女共同参画の推進が滞るので影響有り。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ・男女共同参画推進条例に変わるものはないので、他の手段はない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・事業費はないので、削減余地なし。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・条例制定業務なので正職員以外の職員には委託できない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 ・市、市民、事業所等に関係してくるので、公平・公正である。

合志市

事務事業名	男女共同参画推進条例策定事業	所属部	総務企画部	所属課	総務課
-------	----------------	-----	-------	-----	-----

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

・策定も策定後も、男女共同参画推進委員会でしっかり議論が必要である。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)
- ・男女共同参画推進委員会での十分な議論が重要。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		○	×
	低下		×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

・市長はじめ庁議のメンバーが、条例制定後の取り組みに対しての積極的な意識が必要である。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項